

入学前準備学習講座の試行

大 澤 茂 男*

大阪青山大学健康科学部健康こども学科¹⁾

A trial of preparatory learning courses to the students before admission

Shigeo OHSAWA

Faculty of Health Science, Department of Child Science, Osaka Aoyama University

Summary Increasingly, there is a struggle for universities and colleges to adapt a standardized curriculum to the freshmen from the beginning of the school year due to a variety of their academic skills. As a result, remedial education before admission has grown at these institutions last several years.

Osaka Aoyama University has provided preparatory learning courses to the students before admission since 2007. The analysis of those courses has revealed acceptable but improvable results.

Keywords: preparatory learning, e-learning, remedial education, academic background

入学前教育, e-learning, リメディアル, 学習履歴

はじめに

大学入学者が多様化し、入学当初教育の一斉遂行が困難となっている大学が増加しつつある。そのため大学が独自に、あるいは出版社、予備校等の提供するサービスを利用する形でいわゆる“入学前教育”を実施するといった事例が増えている。

大阪青山大学および短期大学の入学者の状況もその流れの中にあることは疑いない。そこでこのたび（平成19年12月～平成20年3月）、試行的に業者の開発した教育カリキュラムを利用した「入学前準備学習講座」を導入した。本稿では今回の講座の運営に携わった筆者がその概要を報告する。

講座の形態

入学前の合格者に対する講座として、今回はe-learningによる学習形態を選択した。いうまでもなく自宅や高等学校で（放課後などに）自分の自由になる時間を活用して学習できるという点がこの形態の利点である。一方では、こうした形とは別に、実際に大学キャンパスに高校生（合格者）を招いて対面授業を行う形でこれを実施する大学も多くあり、その成果についての報告¹⁾もいくつかなされている。

e-learning型、対面型それぞれに長所、短所がある。大切なことは各大学が入学後の大学教育をより円滑に開始することができるための素地をつくる機会として生かすことである。またそれは各大学のアイデンティティに基づく教育方針のもと、それぞれ独自性をもったものでなければならないはずである。しかしながら今回の場合、導入決定時期が遅く対面授業を準備する期間を十分にとることができなかったこともあり、業者開発の教育カリキュラムを本学向けにアレンジし、希望者に対してそのパッケージを購入させる形での実施となった。

講座の内容

株式会社アートスタッフが開発しているWBT²⁾サービス「e-learning入学前リメディアルコンテンツサービス」を導入した。本サービスは高等学校における教科のうち国語・英語・数学・生物・物理・化学の各学習コンテンツを教科別に用意している。各教科の学習コンテンツは注文に応じて取捨選択することができ、それを順にパソコン上で学習していくといった形である。パソコンがインターネットに接続できる環境³⁾があれば、実施することができる。

本学における今回の試行では、希望者が本サービスを

* E-mail: s-oosawa@osaka-aoyama.ac.jp

1) 〒562-8580 箕面市新稲2-11-1

購入するという形態（いわゆる受益者負担）にした。教科については国語（業者のプログラム上は「日本語表現」という教科名）・英語・生物（健康栄養学科および健康こども学科のみ）・化学（健康栄養学科のみ）の4教科を導入した。希望者は1教科から利用することができ、管理者としての本学は各人の学習履歴を逐一把握することができるようになっていた。

講座の運営

まず平成19年12月下旬に、ダイレクトメールによる合格者への案内を行った。当初は往復葉書での返送による申し込みを想定していたが、e-learningでの学習を進めるといった環境に見合った申込方法として、本学ホームページからメールを利用した申込ができるようフォームを作成、またそれ以外にFAXによる申込を受け付ける形とした。

申込メールあるいはFAXの受信後、入金を確認できた

表1 入学者全体に対する利用率（％）

	利用率
大学	30.8
短期大学	20.7

表2 科目別の受講率（％）

		受講率
大学	英語	22.1
	日本語	26.9
	化学	22.1
	生物	16.3
短期大学	英語	19.5
	日本語	17.7

時点で申込者に学習マニュアル、ログインID及びパスワードを送付した。

12月下旬にダイレクトメールを送付した対象者は特別推薦入試における合格者および公募制推薦入試合格者であったが、1月の一般入試実施後はその合格者に、順次案内のダイレクトメールを発送した。申込（入金）は平成20年1月16日以降に発生し、1月中に47名、2月以降3月10日までの間にさらに19名の申込があった。2月以降の申込者の中には一般入試の合格者が含まれていた。利用者は大学入学者全体の30.8％、短期大学入学者については20.7％の割合であった（表1）。また各科目別の受講割合は表2のとおりであった。

利用者は任意に学習を開始する。一方、管理者としての大学は管理者用のIDとパスワードを受け取り、学部・

学科ごとに利用者の学習進捗状況を逐次閲覧することができる⁴⁾。また、メッセージ送信機能があり、選択条件を設定し（ある学部の合格者宛、ある教科の学習者全員宛など）、ターゲットをしぼった効率的なメッセージ（文字数制限なし）を送ることができる。管理者はまずトップページで学部・学科ごとのそれぞれの教科の学習者が全体で何人いるか確認することができ、各教科コンテンツの終了状況（学習を終了しているものがどれくらいの割合でいるか）を閲覧することができる。さらに個人別表示画面、単元別表示画面で個人の理解度や章ごとの平均理解度を確認することも可能であった。

今回は試行ということで、筆者のみが管理者として学習進捗状況の把握やメール送付を担当した。

結果

推薦入試合格者からなるメイングループ（1月中の申込者）を、大学健康科学部合格者と短期大学合格者に分け、一般入試における大学健康科学部合格者の追加グループ（2月以降の申込者）を加えた3群として、進捗状況を見ていく。

まず上掲図1の「全体アクセス率・累積」をみると、健康科学部のメイングループは2週目に50％に達している。短期大学のグループはやや取りかかりが全体に遅く、3週目に5割を超える形となる。しかしその後はログインの割合が逆転し、短期大学グループは第7週で9割超となるが健康科学部のメイングループが9割を超えるのは第9週である。両グループとも申込はしたものの最後まで一度もアクセスしなかった申込者があった。

一方、健康科学部の追加グループ（一般入試の合格者）については学習開始から一週目にアクセス率は75％に達し、次々週には100％と、全員がアクセスし学習をすすめている。意欲・意識の高さととらえることができるが、入学までの期間が短く、切迫した感覚があるがゆえの結果とも考えられる。

次に各科目の学習進捗率（表3）を学部別にみている。

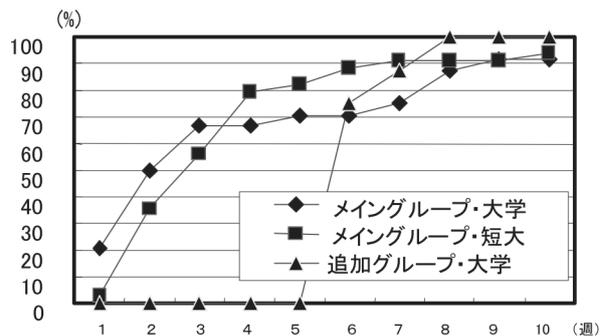


図1 全体アクセス率・累積

表3 各科目の学習進捗率

科目		~1/26	~2/2	~2/9	~2/16	~2/23	~3/1	~3/8	~3/15	~3/22	~3/31	
		第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	
メインG	健康科学部	英語	0.4	0.4	1.3	2.2	3.1	3.6	4.0	4.4	11.6	17.8
		化学	0.0	0.9	3.1	5.3	7.6	8.4	11.1	17.3	26.2	42.7
		生物	0.0	0.5	2.2	3.3	4.9	4.9	4.9	5.4	7.1	8.7
		日本語	0.4	1.6	7.0	9.8	10.7	11.9	16.0	19.7	37.3	52.9
	短期大学	英語	0.0	0.9	2.3	3.7	4.2	6.5	9.3	13.0	15.8	24.2
		日本語	0.5	4.0	7.6	10.6	12.1	17.1	22.2	30.2	36.8	48.8
追加G	健康科学部	英語	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	1.2	4.2	5.4	30.0
		化学	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	22.2	31.8	35.4	46.8
		生物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	1.9	3.7	11.2	43.9
		日本語	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	13.6	31.4	51.2	65.2

メイングループの健康科学部4科目、短期大学2科目、追加グループの健康科学部4科目のうち全体の進捗率を最上位から順にみると、「追加グループ・健康科学部・日本語」が最上位、続いて「メイングループ・健康科学部・日本語」「メイングループ・短期大学・日本語」となる。総じて進捗率が低いのは教科でいえば「英語」であるが、これには「英語」のコンテンツの多さが影響していると思われる。「日本語」(10単元)「化学」(10単元)「生物」(6単元)に比べて「英語」のコンテンツは30単元とかなり多くなっている。ボリュームの多さが負担感を大きくしているのであろうか。学習進捗率の詳細を示した図にあるとおり、「英語」においては第一単元から第二単元への進捗率の落ち込みが激しい。

総じて進捗率は学習が進むにしたがって落ちているが、上記の「英語」と「生物」の進捗率が単元を追って急激に落ちているところが目につく。「英語」の場合はコンテンツの多さ(30単元)が負担感を増幅させた結果かとも思われるが、「生物」(10単元)の場合は他の科目の

学習を優先させた結果かとも思われる。「生物」の学習者のうち単一にその科目だけを申し込んだという者は皆無であり、「英語」もしくは「英語+日本語」さらには「英語+日本語+化学」と同時に履修するといういずれかのスタイルとなっている。優先順からして「生物」は後回しになったと考えられる。

最終的に科目別の学習完遂率(図2)をみると、「追加グループ・健康科学部・日本語」が最も高く(63%)、次いで「メイングループ・健康科学部・日本語」「追加グループ・化学」「メイングループ・短期大学・日本語」となる。「健康科学部」の「化学」「生物」についてはいずれも「追加グループ」の方が高く、「英語」を除くすべての科目について「メイングループ」を上回っている。メイングループの学習期間に比べて追加グループが学習に費やせる期間は二分の一からそれ以下である。したがって常識的には「メイングループ」の方が学習期間の長い分だけ完遂率も高まると考えられるが、結果はそれに反するものとなった。

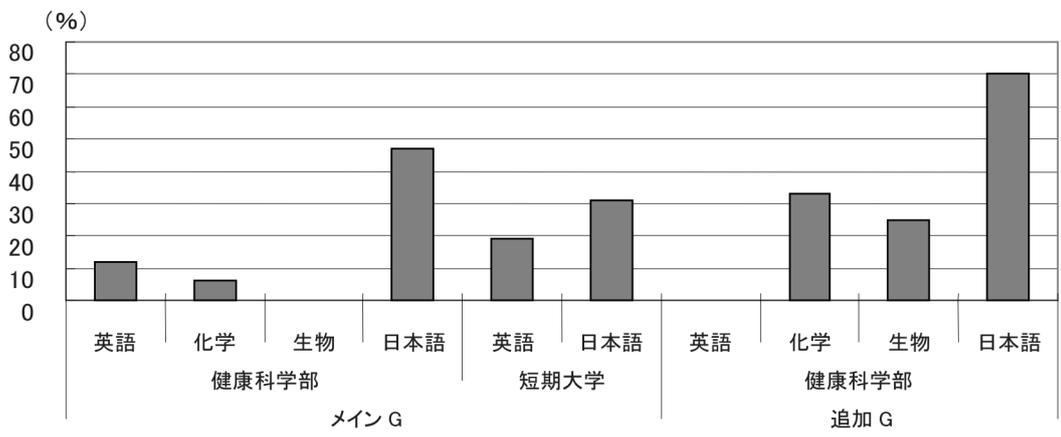


図2 グループごとの科目別完遂率

評 価

任意の講座として実施し、1科目からでも受講できるものとして自由度を高め、自主的な参加を促した今回の「入学前事前学習講座」の試行的導入であった。利用者の割合については業者との当初の予想をそれほどはずれてはいなかった。また、最後まで学習を継続した利用者の割合も、業者によれば常識的な範囲のなかにあるという。しかしながら、利用者のすべてがそれぞれの学習を完遂してくれること、またより多くの入学予定者が利用してくれることが望ましい。以下、業者の学習システムと管理システムに触れながら、今回の実施プロセスと結果について評価しつつ今後の改善点などについて言及したい。

1. 合格者への案内と受付処理

案内文書は後掲(資料1)の通りであり、大学が用意するe-learningのコンテンツであるという位置付けで案内している。提供者の(株)アートスタッフは「事務局運営」と記載している。「学習履歴の管理」「質問対応」といったサポート体制の充実も明記している。また、「受講は任意ですが、入学後に実施される実力テストへの備えとして、是非ご参加下さい。」との内容を添え、アンダーラインで強調している。受講生の参加を促す意図からであるが、強制に近いとまでは言わずとも、見方によっては“強引な客引き”ともいえるニュアンスである。

また、受講の完遂を促す手段として、受講料の一部キャッシュバック(1教科につき1,000円)を実施した。図書券の形で還元するものである。これもより多くの受講者を獲得するための手段であるが、むしろこれはひとつのきっかけ作り、動機付けといったところである。申込者が多ければ、つまり業者を儲けさせればよいというものではない。実際に申込者すなわち入学する予定の合格者が自身の学力増強に役立ててくれるという成果がなくはならない。

申し込みについては本学ホームページ上にメールフォームを作成し、案内にしたがって行える形と、FAXによる申し込みの形の二本立てとした。申し込み形式の内訳はメールによるもの34件、FAXによるもの32件とほぼ半々となり、どちらの方法も同程度の活用状況であった。中には数件であるがメールによる申し込みを済ませた後さらにFAXを翌日ないし翌々日に送付するというケースが見受けられた。

上記のケースは、申し込み受付後の返信メールを受信、確認することがうまくいかなかった(あるいは気付くのが遅れた)ということがまず考えられる。管理者側は申

し込み確認の後、受講料の振込確認を済ませてから案内状を発送するため、ID、パスワードおよび使用説明書が手許に届くまでにはある程度の日数がかかる。申し込みが完了したかどうかの不安から生じた事態ではないかと考えられる。対処が必要な点の一つである。

2. 使用説明書、ID・パスワードの発送

受講者は本講座のHPにアクセスし、ID(六桁の半角数字)とパスワード(四桁の半角英数字)を用いてログインする。今回は郵送(普通便による)という手段によってこれを記した用紙を本人宛に送付したが、時間的なロスを考えるとセキュリティを確保したe-mailによる送付がより望ましいと思われる。ただし、自宅に十分なPC環境がなく高等学校等のパソコンを利用して学習する受講者に対してはそのPCにメールを送信することができない、といったことも考えられる。大半の高校生が所持しているという携帯電話の利用(申し込みおよび送信の手段として)も検討する余地は十分にある。

3. 学習援助

実際に学習を進める受講者に対して、十分な援助体制をとることが必要である。本e-learningシステムの最大の利点は全体の進捗状況の把握のみならず各人の学習履歴が詳細に把握できるという点である。加えて管理者画面にはメッセージ送信機能があり、相手を特定したメッセージ、ないし全受講者に自動で送信するメッセージの設定も可能である。この利点を最大限生かし、多数の受講者に対して一貫した援助の体制を整えることが今回はできなかった。実質のスタッフが筆者および入金確認、資料発送等に従事した教務スタッフ1名の計2名と限られていたため、そういった対応は難しかった。

特に大きな問題として挙げられるのが、申し込みをしながら一度もアクセスしなかった者の存在である。アクセスしなければ管理者からのメッセージも届かない。むしろダイレクトコール(自宅等に直接電話をして利用を促すこと)が必要である。こういった対応もできる学習履歴閲覧および学習進行援助の体制をとることが、次回以降実施するための要件の一つである。この対応には、在学生(上級生)の参画が有効ではないかと考える。彼らが例えば携帯電話(ケータイ)のメールで友達同士やりとりをしているような文体で、励ましのことばをもらえるようにするとしたら、もっと効果があると考えられる。

4. 学習期間終了後のフォロー

(株)アートスタッフから「学習結果レポート」および「個人別学習結果」が電子データと紙資料で届けられる。レポートにはグループごとの「アクセスログ」「学習進捗率」(科目全体および単元ごとの)、「事前テスト」「修了テスト」の結果、受講生からの質問内容と回数について、および最終アンケートの結果が報告される。個人別学習結果のなかには10週間の学習進捗率が章別(単元別)に記載されており、学習内容に関するきめ細かい個別指導が可能である。入学後に配属されたクラス担任によってその指導が行われれば、学習に関するさまざまなアドバイスを受け取ることも可能であり、担任教員の側には入学者それぞれの学びの意識を探り、事後の対応を考えていく重要な契機とすることも可能である。

次回実施に向けて

今回の試行は、他校に先駆けての入学前教育導入が急務であるとの筆者および周辺の認識に基づくものであり、当初は健康科学部健康栄養学科における試行のみを企画したものであった。短期大学への同時試行は短期大学教職員による十分な議論のないまま行なったものであり、周知も不十分であった。受講者は十分なフォローアップが受けられず、申し込んだにもかかわらず学習を進められなかった事例も生じた。

前節までも述べたとおり、入学前教育としての効果を生むためには、援助体制の確立とそれによる一貫した厚い対応が不可欠である。学内で本件実施についての十分な意見交換の場を設けることが急務である。次回の報

告において何らかの成果が盛り込めるよう今後の実践に臨みたい。

- 1) 代表的な例として聖学院大学では、対面講義方式の入学前準備教育(1日4コマ×10日間)を2001年から実施しており、受講者を募る形(全員強制参加ではない)で、費用も半額は自己負担を課している(日本リメディアル教育学会第2回全国大会発表予稿集41-42頁、同第4回予稿集45-46頁)。また、羽衣国際大学産業社会学部は2003年から入学前教育についての保護者説明会も含めた入学前教育を通学(オンキャンパス)とeラーニング、自習課題(オフキャンパス)との併用の形で実施している(日本リメディアル教育学会第4回全国大会発表予稿集23-24頁)。
- 2) Web Based Trainingの略。インターネット環境を利用して教育を行うこと。学習者は場所を選ばず自分のペースに合わせて学習を進めることができる。また、学習の進捗状況はネットワークを通し随時データベースへと登録されるので、受講者に対してきめの細かい管理・指導を行なうことができる。
- 3) 次の環境が基本的に必要である。機種：Windows、OS：Windows98 SE以降、ブラウザ：Internet Explorer5.5以上、画面解像度：1024×768ピクセル以上、ネットワーク：ADSL回線以上を推奨、その他：Adobe Reader5.0以降、Flash Player7以降。
- 4) 管理者画面はトップページ・個人別表示・単元別表示・カリキュラム表示・メッセージ送信の各ページからなっている。トップページには各科目の全体進捗グラフが置かれ、そこから各科目の詳細情報(個人別・単元別)に入っていくことができる

資料1 (送付案内文)

入学前準備学習講座のご案内

ご入学予定の皆様へ

合格おめでとうございます。さて、皆様の中には入学を控えて希望を持たれている一方で、大学での勉強に対して不安を感じている人も多いのではないのでしょうか。そこで大阪青山大学では、そのような学生の皆様へ入学前までに学習頂けるコンテンツをご用意しています。

この講座は、Webによるe-learningシステムで、大学に必要な教科・単元を効率的に学習することが可能です。また、学習履歴の管理や、質問対応などのサポートも充実しており、大学入学前学習を安心して進めることが出来ます。また、基礎学習の英語、レポート作成において重要な日本語表現法、大学での専門科目の基礎となる生物、化学を学ぶことが出来ます。

なお、本講座を受講するには、インターネットに接続できる環境が必要です。ご自宅以外でもインターネットに接続できれば、高校のパソコンルーム等を活用して学習することが可能です。

受講は任意ですが、皆さんの能力を大学で活かせるよう各科目の最終チェックとして、そして入学後に実施される方テストへの備えとして、参加されることをお勧めいたします。新学期からは入学前まで試験勉強してきた方と同じスタートラインに立つこととなりますので、入学後スムーズに学習を進められるよう多数の参加をお待ちしています。

<e-learning 入学前準備教材概要>

■教科・単元ラインナップ

英 語	： 基本文型・時制・構文・不定詞・リスニング 等 《両学科推奨》
生 物	： 代謝・遺伝・細胞から個体まで・生殖と発生 等 《両学科推奨》
化 学	： 原子の構造と化学結合・物質と化学反応式 等 《健康栄養学科推奨》
日本語表現法	： 漢字・文法力・語彙力・表現力 等 《両学科推奨》

■ 申込受付	2008年1月11日～1月18日
■ 受講価格	英語・生物・化学 各 ¥4,000(税込)
	日本語表現法 ¥5,000(税込)
■ 受講期間	2008年1月21日～3月31日

※受講生には学習にあたり使用説明書を郵送いたします。お申し込みは下記URLにアクセスし、案内にしたがって行うか、同封の申込書(FAX用)をご利用ください。

大阪青山大学 Web ページ

<http://www1.osaka-aoyama.ac.jp/univ/index.html>

(事務局運営・株式会社アートスタッフ)

※尚、受講データは今後のカリキュラム改善のために利用させていただくことがあります。ただし、受講された方に不利益となる利用は決していたしません。

		お問い合わせ	大阪青山大学 教務部 入学前教育担当 大澤
〒562-8580 大阪府箕面市新編2-11-1 電話 072-723-9437(直通)			